

【 パ ッ ケ ー ジ ソ フ ト 】

# レンタル市場 10月度レポート

◆————◆  
< 2011年11月14日 >

震災以来の低売上。2ヵ月連続の  
ラインナップの弱さが影響

KRI 

キネマ旬報映画総合研究所

**【ランキングから／前月に続くラインナップの弱さ】**

10月度の貸出数で首位となったのは、前月末にリリースされた『X-MEN：ファースト・ジェネレーション』。元々レンタルユーザーからの支持が高く、ポテンシャルを持った作品ではあるが、興収は10億に届いていない。11～12月の超大作ラッシュを前にした絶妙のリリースタイミングも回転数を伸ばす大きな要因になっているだろう。2位はGANTZ2部作の後編となる『GANTZ PERFECT ANSWER』。興収27億円の大作だが、導入枚数の差もあり、総回転数では『X-MEN～』に一歩及ばなかった。3、4位は前月からの漸減で若干実績を落とした『SP 革命篇』と『ブラック・スワン』。5位に食い込んだのは『マイティ・ソー』。『X-MEN』と同じくアメコミ原作だが、同ジャンルの作品はどれも安定した人気を誇り、関連作品を集めてのコーナー展開もレンタル店の定番となっている。その他の注目作では、海外TVドラマ作品として今年初めてのベスト20入りした『ホワイトカラー』。Vol.1が12位、Vol.2が19位にランクインし、Vol.3～7もすべて50位以内に入っている。

このようなラインナップだが、店頭売上は前年比で80%台が続出しており、その主因として挙げられているのが「ラインナップの弱さ」だ。下記表にて昨年度のラインナップと比較してほしい。新規オープンやクローズなどの事情で、集計対象店に若干の違いがあるため単純比較はできないが、傾向を掴むことはできる。このデータで同順位の商品の貸出数を比較すると、1位以外、20位までの作品すべてが前年を下回り、また、3、4位及び7位から16位の中位作品で差異が大きくなっている。つまり、リードタイトルは前年並みかそれ以上だが、全体的に見ると昨年よりも作品力が弱めといえることができる。さらに細かく見ていくと、今年度のランキング上位には9月上旬以前にリリースされたタイトルが多く並んでいる。『SP 革命篇』(8/26)『ブラック・スワン』(9/7)『漫才ギャング』(8/23)『借りぐらしのアリエッティ』(6/17)など、ベスト20のうち8タイトルを占める。また、7月以前にリリースされた作品に限っても4作品がランクインしている。ラインナップの弱さが10月だけでなく9月以前から続いているということだ。また、昨年のラインナップで目立つのが『24-TWENTY FOUR-』の強さだ。今年の『ホワイトカラー』も健闘しているのだが、一時は社会現象にもなった『24～』とは比べられない。ひとつのシリーズで何本もの商品を稼働させられるTVシリーズは、売上貢献度の高いジャンルだが、今年は大ヒットといえるシリーズが出ていない。こうしたジャンルそのもののトレンドも売上不調に影を落としていると言えるだろう。

また、長期間にわたって商品力が低下している状況は、ユーザーの習慣づけが重要といわれるレンタル業にとっては非常に深刻だ。そうした中、レンタル店が心配しているのは、ヘビーユーザーが配信などの他メディアへ流れてしまうことだ。来店頻度が低下して余暇時間を持て余している映画ファンが、“試しに”配信を利用してみる、といった動向を示す可能性は高い。11月2日には『パイレーツ・オブ・カリビアン』がリリースされ売上、客数とも浮上したが、2週目には早くも10月の水準にまで低下しているという店舗も多い。こうした状況もあって、ヘビーユーザーのレンタル離れを危惧する声は高まっている。

## 【2011年10月度】

順位	タイトル	貸出数	貸出数／積算	前年差異(同順位)
1	X-MEN：ファースト・ジェネレーション	120.3	120.3	18.81
2	GANTZ PERFECT ANSWER	87.5	207.8	-1.51
3	SP 革命篇	65.1	272.9	-10.33
4	ブラック・スワン	61.3	334.1	-12.75
5	マイティ・ソー	60.3	394.4	-7.51
6	アジャストメント	60.0	454.4	-3.15
7	漫才ギャング	52.5	506.8	-9.95
8	ヒア アフター	49.2	556.0	-11.50
9	劇場版 名探偵コナン 沈黙の15分(クォーター)	46.3	602.3	-13.29
10	アンノウン	42.4	644.7	-16.84
11	借りぐらしのアリエッティ	41.9	686.5	-17.05
12	ホワイトカラー“知的”犯罪ファイル vol.1	41.8	728.3	-15.00
13	ツーリスト	40.7	769.0	-13.45
14	赤ずきん	40.5	809.5	-10.11
15	パラダイス・キス	38.9	848.3	-11.03
16	GANTZ	37.4	885.8	-10.98
17	ガリバー旅行記	34.9	920.6	-5.23
18	SPACE BATTLESHIP ヤマト	34.4	955.0	-5.15
19	ホワイトカラー vol.2	34.3	989.3	-1.89
20	塔の上のラプンツェル	32.8	1022.1	-2.76

## 【2010年10月度】

順位	タイトル	貸出数	貸出数／積算
1	グリーン・ゾーン	101.5	101.5
2	ONE PIECE FILM STRONG WORLD	89.0	190.5
3	ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ	75.4	265.9
4	アイアンマン2	74.0	339.9
5	劇場版 名探偵コナン 天空の難破船(ロスト・シップ)	67.8	407.7
6	24 - TWENTY FOUR - ファイナル・シーズン vol.1	63.1	470.8
7	シャッター アイランド	62.4	533.2
8	24 - TWENTY FOUR - ファイナル・シーズン vol.2	60.7	593.9
9	のだめカンタービレ 最終楽章 後編	59.6	653.5
10	プリンス・オブ・ペルシャ/時間の砂	59.2	712.7
11	タイタンの戦い	58.9	771.6
12	24 - TWENTY FOUR - ファイナル・シーズン vol.3	56.8	828.4
13	24 - TWENTY FOUR - ファイナル・シーズン vol.4	54.1	882.5
14	ハート・ロッカー	50.6	933.1
15	アリス・イン・ワンダーランド	49.9	983.0
16	第9地区	48.4	1031.4
17	シャーロック・ホームズ	40.1	1071.5
18	パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々	39.5	1111.0
19	パリより愛をこめて	36.2	1147.2
20	アバター	35.6	1182.8

※貸出数は1店当たり(ビデオ・インサイダー・ジャパン調べ)

**【10月度市況／前年比80%台も続出】**

前述の通り、10月度の市況は非常に厳しいものになった。売上前年比100%以上を維持していた上場各社も今月は軒並み前年割れした。(ゲオ 95.6%、ウェアハウス 97.1%、三洋堂 94%、トップカルチャー 91.8%) TSUTAYAも地域によってばらつきがあるが、少なくとも競合状況が厳しい地域では前年を割る店舗も多いという。非上場の一般店はさらに厳しく、前月比で5～10%ダウンといった状況。比較的堅調な店舗でも95%程度で、70%～80%台の店舗も多い。主な原因は前述の通り作品力不足だが、夏場に連発された値下げキャンペーンの反動も無視できない。TSUTAYAやゲオの店頭では「次のキャンペーンはいつ?」といった問合せが多いといい「安くならないと借りない」ユーザー動向が伺える。

非常に厳しい状況であることは間違いないのだが、低い前年比の背景には前年実績が好調であったことも見逃せない。前年の状況は「貸出数は多くないが、売上は上昇」というものだった。7月頃から徐々に見え始めた需要回復もあり、長く続いた低料金が見直され、各地域で数十円程度の値上げが行われた。そのため、貸出数は伸びなかったものの貸出単価の上昇がそれを補って、売上増に結びついたという時期であった。

いずれにしても、3月の震災時にも匹敵する落ち込みは深刻。11月～12月の大作ラッシュに期待するしかない状況だ。